

小品四つ

中勸助

青空文庫

秋草

これはもうひと昔もまえの秋のひと夜の思い出である。さつさつと風がたつて星が燈し火のように瞬く夜であった。身も世もないほど力を落して帰ろうとするのを美しい人が呼びとめて

「花をきつてさしあげましょう」

といいながら花はな 鋏はさみと手燭てしよくをもつておりてきた。そして泳ぐ

ような手つきで繁しげりあつた秋草をかきわけ、しろじろとみえる頸く筋びすじや手くびのあたりに蝗いなごみたいに飛びつく夜露、またほかげにきろきろと光る蜘蛛くもの巣をよけて右に左に身を靡なびかせつつひと足

ぬきに植込みのなかへはいってゆくのを、かわつてもつた手燭をさしだして足もとを照しながらかたみに繁みのなかへ溶けてゆく白い踵きびすの跡をふんでゆけば、虫の音はたと鳴きやみ、草の莖ははねかえつてきてちかと人を打つ。咲きみだれた秋草の波になかば沈んだ丈高い姿ははるかな星の光とほのめくともし火の影に照されて童女のごとくにみえる。おりおり空から風が吹きおちて火をけそうとすると

「あら」

と大きな目がふりかえつてひとしきり鋏の音がやむ。驚かされた蛾がは手燭のまわりをきりきりとまわつて長い眉まゆをひそめさせる。そんなにして無言のままに紫苑しおんや、虎の尾や、女道花おみなえしや、みだ

れさいた秋草の花から花へと歩みをうつしてゆくのを、私は胸いっぱいになつて、すべての星宿が天の東からでて西にめぐるよりも貴いことに眺めていた。ここにあるいくすじの細いリボンの、白と、黄と、淡紅と、ところどころに青いしみのあるのはそのおりおりにきつて束ねてもらつた草の汁である。さりながら私はこのうちのどれがその夜のものであつたかをおぼえていない。

小箱

ここに今はいない妹の手細工のガラスの小箱がある。六枚のす

り硝子ガラスの合せあわめをクリーム色のリボンでびしりとしめあわせたもので、襷飾ひだりがしてある。あんなに美しい指をもちながら兄弟じゆうでの無器用で、常づね私にからかわれて泣き顔をした妹もこればかりは笑われまいと一所懸命こしらえたものか、たいそう手際よくできています。いつものとおりにけなしけなしほめてやったらそれでも嬉うれしそうにちよつと首をかしげたことを思いだす。なかに入れておいたいろいろな貝はいつかいりまじってどれが誰のとも見わけられないのはとりかえしのつかぬ寂しい気がするけれど、いずれも私にやさしく親しい指の拾いあつめたものとおもえばなかなか思いなぐさむところもある。

ここなる二ひらの帆立貝ほたてがいのひとつは藤紫ふじむらさきに白をぼかし、

放射状にたてた幾十の帆柱は無数の綺麗きれいな鱗りんじょう茸きんぎょをつらねて、
 今しも迸ほとばしりいでた曙あけぼのの光がいろいろの雲の層に遮さへぎられたようにみ
 える。他のものは暗紅に紫黒と海老色えびの帯をまとつて、ところど
 ころ鳥糞ちようふんにた白い斑はんでん点がついている。これは夕ばえの天
 の姿である。これらの二つをならべてその蝶ちようつがいをからだとみ
 れば、それはまた二羽の孔雀くじやくの競いかに尾羽根をひろげたさま
 である。美しかさねをきた子安貝、なないろのさざ波のよると
 こぶし。巻貝、笠貝かさがい、雲がた貝。月日貝は幸ある子かな。くれ
 ないの朝日と、淡黄の夕月と、貴い父ははのかいなに抱かれて南
 の海に眠るといふ。あわれいみじきこれらのものよ。紅白の珊瑚さんご
 の林に花とちり実と落ちた貝の殻は、竜の乙女が玉をみがいた踵かかと

にふまれて、その足指の白さに、爪のうすべにに、髪ひの紫に、瞳ひとみのみどりに染みてこの麗うるわしい色は得たのであろう。わたつみの海の千ちひろの底にしておのずからわが身にふさえる家もち、ほどよい青の光の国に、あるいは螺鈿らでんの穹きゆう窿りゆうのしたに、またはひとつ柱の迷宮のうちに、心しずかに夢みてすごす海のうちからをねたく思う。

折紙

私はまたその妹とすごした海岸の夏をわすれたことはない。あ

の松原のなかで潮風の香をかぎ松をこえてくる海の音をききなが
 ら二人して折物をして遊んだとき、円窓のそとにはなぎの若木が
 ならんで砂地のうえに涼しい紺色の影を落した。妹はふつくらと
 実のいった長い指に折紙をあちらこちらに畳みながらふくふくし
 た顔をかしげて独り言をいったり、たわいもないことをいいかけ
 たりする。つややかな丸まるまげ髷ゆに結ゆつてうす色の珊瑚の玉をさして
 いた。桃色の鶴や、浅葱あさぎのふくら雀すずめや、出来たのをひとつひとつ
 見せてはつづけてゆく。私は妹と向きあつてなんのかのとかまい
 ながらやつとのことれんげで蓮花とだまし舟を折つた。ここにあるひと
 たばの折紙はなつかしいそのおりの残りである。藍あいや鶺鴒ひわや朽葉くちばな
 どかさな重りあつて縞しまになつた縁をみれば女の子のしめる博多はかたの帯を思

いだす。そのめざましい鬱金うこんはあの待宵まつよいの花の色、いつぞや妹と植えたらば夜昼の境にまどろむ黄昏たそがれの女神の夢のようにほのぼのと咲いた。この紫は螢ほたるぐさ草、螢が好きな草ゆえに私も好きな草である。私はこんなにして色ばかり見るのが楽しい。じっと見つめていれば瞳のなかへ吸いこまれてゆくような気がする。ようやく筆の持てる頃から絵が好きで、使い残りの紅皿を姉にねだつて口のはたを染めながら皿のふちに青く光る紅を溶として虻あぶや蜻蛉んぼの絵をかいた。そののちやつとの思いで小さな絵具箱を買ってもらい一日部屋に閉じこもつてくさ草紙の絵やなど写したが、なにも写すものもなく描くものも浮んでこないときは皿のうえにそれこれの色をまぜてあらたに生れる色の不思議に眼をみはり、ま

た濃い色を水に落して雲の形、入道にゅうどうの形に沈んでゆくのに眺め入った。さてもこの綺麗きれいな色紙はいつの日かまた妹の指に畳まれて鶴となり、ふくら雀となるであらうか。

あしべ踊おどり

ここに葦あしの葉の模様のついた淡うす卵たまご色の粗末な小皿がある。これはさる頃の葦辺踊あしべおどりのときのものでいまだにうす赤く菓子かのあとがついてるが、私は近頃ながらく病床にいたあいだこれをなつかしいものにして枕もとにおき、そのおりの旅のみやげの春か

日すがの鹿をならべてあかず眺めていた。皿のふちにずらりと鼻をな
 らべた赤や茶や紺こんじよう青あおの鹿の輪は葦辺踊りの美しい子たちの
 姿である。まず私はほどよい行燈あんどんのあかりに照された座敷に人
 形のように坐つてた点茶の太夫たゆうと、この菓子皿を手にかけて金魚
 みたいに浮いてきたかわいい子を思いだす。それからさつと三方
 にあがる幕と、雨のように降りかかる三味線の音と、豊ゆたかにまろら
 かな立唄たてうたの声と、両花道からしずしずと鰭ひれをふりながらあらわ
 れる踊り子の緋鯉ひごいの列と……とりわけ鮮あざやかに幻に残つてるのは、錦にしん
しきえ絵から飛んで出たような囃子はやしの子たちの百羽の銀ぎん鳩ばとが一斉に
 鳴くように自由に生きいきと声をそろえた ほう いや のかけ
 声、いい姿勢に撞しゅもく木をとつてきりりんきりりと緩ゆるやかにうち鳴

らした鉦かねの音である。その囃し子のまんなかに太鼓を打った花形
 の子は上かみがた方風の柔和な顔に梅ばい幸こうに似たうけ口をしていた。私
 はその夜の唄をしるしたたとう紙を忘れずにもって帰った。二つ
 折の紙の表に銀ぎん泥でいの水の地の天には桜の花を、地には紫の土を
 染めだして、だらりに結んだ舞子の後姿がついている。その髷たほと
 襟えりのあいだには白い頸くびすじ筋びん、鬢びんのしたにはふつくらした頬がみえ
 て、帯の模様は青柳つばめに燕である。またスペードの2の裏にその夜
 の踊り子のなかのたてもの写真のついたトランプもある。それ
 はさしかぎす絵日傘のかげになまめく顔や顔のなかで子安貝の背
 に彫つてはめたようなすすしい眼まなざしをした子で、伊丹幸いたこうの□□
 □という。

たとえばこの胸の冬の空にたまたま過ぎてゆくこれらの暖い雲の影は常に憂鬱ゆううつな私をしておぼえず寂しくほほえませることがある。孟宗もうそうの枝に寝ねるあの鳩と、私と、どちらがより多くの夢をもつであろうか。

大正二年稿

青空文庫情報

底本：「中勘助随筆集」岩波文庫、岩波書店

1985（昭和60）年6月17日第1刷発行

底本の親本：「中勘助全集 第一卷」角川書店

1960（昭和35）年12月5日

初出：「母の死」岩波書店

1935年（昭和10）年4月

※「踵」に対するルビの「かかと」と「きびす」、「踊」に対するルビの「おど」と「おどり」の混在は、底本通りです。

入力：呑天

校正・・noriko saito

2019年4月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

小品四つ

中勘助

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>